

## 第3学年2組 算数科学習指導案

場所 3-2教室

- 1 単元 あまりのあるわり算（本時6／8）
- 2 本時の目標  
問題場面の余りの意味に着目し、余りを切り上げて処理する問題を理解し活用できる。  
（思考・判断・表現）
- 3 課題を追求するための手だて  
スクールタクトを利用し、他の児童の●の分け方と自身の分け方を比べる。

### 4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 問題を把握する。 ・長いすって脚で数えるんだ。 ・前はわり算だったけど、今回は何算なんだろう。 ・ $35 \div 4 = 8$ あまり 3 だよね。 ・前の問題はあまりも聞かれてた！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の問題との相違点を聞く。</li> <li>・教科書の絵を用いて、問題把握を容易にする。</li> <li>・子供に立式させ、計算の答えを求めさせる。</li> <li>・問題文からわかること、聞かれていることを整理する。</li> </ul>
課題 (1)	わり算のあまりをどうすればよいのか考えよう	
展開 (31)	<p>3 余りをどのようにすればよいか考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残りの3人が座れないから、もう1ついると思うな。</li> <li>・答えに1を足せばいいと思う。だって、残りの3人が座れなくてかわいそうだから。</li> <li>・わり算の答えは8だから、答えも8だと思う。</li> </ul> <p>4 教科書の適用題を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11個のボールを2つずつだから、式は<math>11 \div 2 = 5</math> あまり 1。5回だとボールが1個余るから…</li> <li>・単位もわすれないようにしないと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35個の●をノートに書き、4個ずつ分け、その様子を書いたノートを写真に撮り、スクールタクトに乗せるように指示する。</li> <li>・●は数図ブロックの代わりであることを伝え、書き方は35人を4人ずつ長いすに座らせたときの配置を考えて書くように伝える。</li> <li>・<u>全員がスクールタクトに上げられた写真と自身の考えを比べさせ、自身の考えとの違いを比べさせる。</u></li> <li>・児童全員が自分の考えを持った後、何人かの児童を指名し、自身の考えをテレビに映して説明する。</li> <li>・適用題を解くことが難しい児童には、●をノートに書き、問題を解くように伝える。</li> <li>・適用題を早く解くことが出来た児童には、教科書にある「もっと練習」を解くように伝える。</li> </ul>
整理 (8)	5 本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">いすに座れないあまりの3があるときは、答えを1ふやす。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを行う際には、「答えを1ふやす」という言葉を使うことを知らせる。</li> <li>・振り返りは、「あまり」「答えを1ふやす」と書いた児童を指名し、発表させる。</li> </ul>

### 5 評価

問題場面の余りの部分に着目し、余りを切り上げる理由を説明できる。（思考力・判断力・表現力）